

B O O K

教文館



「銀座ジャック 再び!」

写真で銀ブラ

日本建築写真家協会 編著

鹿島出版会 本体 3000 円

建築写真を職業とする写真家の職能と地位の確立のための活動などを目的に設立。2007年、銀座通りの巨大なパノラマ写真を展示した「銀座ジャック」が大きな反響を呼ぶ。本書は協会創立20周年記念事業の一環として制作された。

銀座通りをすべて描くもの。昭和初めに岸田劉生^{しんこういけんがのなすじ}『新古今細句銀座通』があるが、平成最後を撮った写真なら本書だろう。

『銀座通』には絵もあるが、本書の圧巻は西を昼に、東を夜に撮ったパノラマ。

銀座ながらの景色。和光の時計塔ならぬ「若い時計塔」は泰明小を背景に、恋の弓持つ天使は天賞堂の隅に、銀座線をつくった早川徳次の像はやはり地下に。

催しの賑わい。金春祭りは小さな縦看

板の列に、提灯^{ちよんちん}が横に交差。東京マラソンでは、待機するはとバスの行列列。

そこここにある社^{やしろ}。デパートの屋上にもあり、三原小路には稲荷^{のほ}の幟^{のぼり}。

ほのぐらい路地にも必ず人が一人や二人。怪盗紳士ルパンも看板にいる。

夜の帳が降りるころ、デイオールは白く、丸源ビルは赤と緑で街を彩る。

昔は細句、今もモザイクの小店小局。

昼も夜も百花繚乱^{ひゃかかりょうらん}

(伊藤豊)